

令和3年度国立文化財機構文化財防災センター研修開催のご案内 「なぜ災害発生後に文化財を救うのかー文化財レスキューと心理社会的支援ー」

(独) 国立文化財機構文化財防災センターは本年度「なぜ災害発生後に文化財を救うのかー文化財レスキューと心理社会的支援ー」というテーマで研修を開催します。山形県内においては平成元年山形県沖地震(鶴岡地震)では国指定建造物の旧西田川郡役所など、令和2年山形豪雨では国指定史跡の慈恩寺旧境内や左沢楯山城跡などが被災するなど、自然災害による文化財の被災事例が相次いでいます。このように地震のみならず、気候変動に伴い火事や風水害によって文化財が被災するリスクがますます増えるなか、文化財の被害を抑制するための対策や、早期の復旧、復興に向けた仕組みづくりが必要とされています。一方で、こうした文化財防災の事前の取り組みが実際に災害発生後に機能するには、文化財レスキュー活動に関わる人々が平時から文化財を守ること、文化財の救出が地域の復興にどのように貢献できるかを理解するだけでなく、そうした考えを地域レベルで共有する必要があります。本研修では、東日本大震災における文化財レスキュー活動の事例を通して、災害発生後に文化財を救うことが活動の参加者や地域に対してどのような役割を果たしたのかについて心理学的な手法を用いた検証を行います。また参加者間の討議を通して、山形県の文化財防災や地域の復興について深く考える機会とします。

日時：令和3年11月13日(土)10時00分～16時30分(受付9:30～)

会場：東北芸術工科大学(山形県山形市上桜田3丁目4番5号)

※駐車場をご利用いただけます。

参加対象：山形県内の文化施設に勤務する学芸員、地方公共団体の文化財行政担当者および文化財や資料を救出する可能性のある団体や組織の職員等

開催方式：対面・一部リモート配信(講義のみ)※当日東北芸術工科大学で実施するプログラムの一部を配信いたします。

※参加型セッションは非公開です。東北芸術工科大学にて対面でのみ参加が可能です。

※山形県内の感染状況に応じて参加型セッションの開催を中止し、講義のみリモート配信いたします。

定員：対面参加15名程度※リモート配信の参加には定員はございません。

※応募多数の場合は、リモート配信の参加をご案内する場合がございます。

応募締め切り/方法：令和3年10月17日(日)/Faxもしくはメールで参加申込用紙を送付

主催：(独) 国立文化財機構文化財防災センター

共催：東京文化財研究所

後援：山形県・東北芸術工科大学・山形文化遺産防災ネットワーク

プログラム(9:30～受付)

10:00-10:20 開催のあいさつと文化財防災センターについて

10:20-11:00 山形県における文化財防災の取り組み

11:00-12:20 「歴史資料保存と災害支援～歴史資料保存活動がなぜ、災害に強い地域づくりに貢献できるか」J.F.モリス（東北大学災害科学国際研究所客員教授宮城資料保全ネットワーク）

12:20-13:30 昼休憩

13:30-14:50 「歴史資料レスキュー活動と心理社会的支援」上山真知子（東北大学災害科学国際研究所客員教授）

14:50-15:00 休憩※リモート配信中締め 15:00-16:20 参加型セッション

16:20-16:30 まとめ

※研修終了後希望者を対象に東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターの見学会を開催いたします。

お問い合わせ（独）国立文化財機構文化財防災センター水谷悦子

e-mail: bosaikensyu2021@tobunken.go.jp